

【様式】

学校教育目標	真理 感性 実践<人間力を高める>
目指す学校像	「岸中 前へ！」心と心の通い合う教育活動を展開し、誰一人取り残すことなく100年人生 Well-being に輝き続ける生徒を育成する。
重点目標	1 学びの自律化及び協働的な学びの充実 2 教育支援・教育相談体制の充実、コロナ禍における学校行事の充実 3 本校教育活動の情報発信の充実、本校PTAとの連携強化 4 安全安心な学校環境を整備する体制の構築 5 保護者・地域の期待に応える教育活動の充実と人材の育成

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ大変良好な結果である。 <課題> ○市の学習状況調査では、学年が低いほど、学習に対する意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした生徒の割合が低い。	・学びの自律化に向けた取組	①スタディサプリのWEBドリルや講義動画等を効果的に活用する。 ②学習スペースを設置し広報して、多くの生徒に有効に活用させる。 ③夏季特別学習会を実施する。	①「学びの指標」における生徒の肯定的な回答の状況。 ②学習スペースの利用状況、定期テスト前の学習会の実施状況。 ③夏季特別学習会の実施状況。	①「学びの指標」アンケートにおける平均値「探究的」3.39(4点満点) ②定期テスト前に図書館、学習室、学習スペースを開放。開放日の平均利用者20名程度。 ③夏季特別学習会を全教職員で39講座実施し、のべ300名を超える生徒が参加した。	B	①スクールダッシュボードの導入により、効果的な利活用の方法を研究し、探究的に学ぶ力を育成する。 ②学力に係る調査においては、市内でも高い水準にあるが、真の学力を育む研究に努める。
		・協働的な学びの実践状況	①「さいたまエンジン」を市教委及び企業と連携して円滑に実施する。 ②タブレット端末を有効に活用し、「じ・し・ゃ・く」を意識した授業を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組む。	①各教諭のタブレット端末の活用事例の拡大状況。 ②「じ・し・ゃ・く」を意識した授業の実施状況。 ③「さいたまカップ」におけるプレゼンテーションの状況。	①②学期に1回、タブレット端末を活用した「じ・し・ゃ・く」の授業公開を行い、教職員間で活用方法を共有し、毎日の授業に生かした。(100%)また、11/7に外部より50名の参観者をお招きし、研究発表会を実施した。 ③さいたまエンジンを実施し、市内4企業と連携。さいたまカップへ4チーム出場し、1チームが準グランプリを受賞した。	A	①「学びの指標」アンケートに挙げられる授業改善の観点から、引き続きより質の高い授業を実施できるように研修を深める。 ②新しいキャリア教育の一環として「さいたまエンジン」を継続する。
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、本校は「当てはまる」と回答した生徒は、全国に比べて約10ポイント以上高かった。 <課題> ○不登校生徒に係る教職員間の共通理解・共通行動 ○この先10年を見据えた行事の有り方や持続可能な実施方法を検討し、生徒たちに連帯感・一体感や成就感・達成感を感じさせるかが課題である。	・校内教育相談体制の充実	①さわやか相談室・学習室・保健室登校の生徒が目標を持って学校生活を送れるようにする。 ②教員とスクールアシスタント、保健室職員、相談室職員との連携を強化する。 ③教育相談室(Solaら一む)の活用を推進し、全ての子どもたちの居場所(Solaフロア)を構築する。	①教職員が親身になって悩みや相談に乗ってくれているに対して肯定的回答9割。 ②支援を必要とする生徒の情報共有状況 ③スクールカウンセラー及びさわやか相談員の活用状況。 ④生徒へのアセスメントの回数。	①Solaフロアの充実により、学校評価「教職員が親身になって相談のつてくれる。」の肯定的回答、生徒97%、保護者96%。 ②週1回教育相談部会、生徒指導委員会を実施し、外部と連携したケース会議等を9回実施した。 ③スクールカウンセラー、さわやか相談員に加えて、SSW、支援課、児童相談所、保育所等訪問支援、発達支援専門の教室、特別支援教育ネットワークの機能を活用した。 ④生徒へのアセスメント回数3回。	A	①生徒や保護者のさいま SOS を敏感に感じ取り、気付くことのできる感覚を持った教職員の育成を行う。 ②外部機関との連携を行い、生徒、保護者、家庭へ多様な支援が行き届くようにする。
		・学校行事の充実	①様々な状況下で可能な限り、行事等を工夫して実施していく。 ②生徒が主体的に活動に参加できるように工夫する。	①学校行事等の実施状況。 ②学校外の機関の行事への参加。 ③行事に係る生徒アンケートの肯定的回答状況。	①体育祭、文化祭を土曜日に開催し、制限をかけず、多くの保護者が見られるようにした。カナダ親善国際交流を実施し、友好協定を結ぶことができた。3年修学旅行、2年志賀高原林間学校、1年自然の教室を実施した。 ②公民館、自治会、商店会、青少年育成会主催行事、浦和区民まつり等へ参加。 ③行事に係る学校評価生徒アンケートの肯定的回答97%。	A	①コロナ禍以前の実施規模に戻しながら、目的を達成するために、10年持続可能になるべく、最も効果的な実施時期、実施方法等を検討し、改善する。 ②日頃の活動の成果を地域の方に評価していただく機会の充実を図る。
3	<現状> ○学校運営協議会と協働しながら、地域全体で生徒を育てていくことを共有した。 <課題> ○保護者や地域の方々が学校に来る機会を増やしていくこと。	・PTAとの連携強化 ・学校運営協議会との連携強化	①PTA本部役員の方々とのお打ち合わせを行う回数を増やして行く。 ②学校運営協議会における熟議を充実する。	①PTA及び期成会の支出について整理状況。 ②学校運営協議会における熟議の内容。	①生徒の活動へ支援として、適切な手続きのもとご助力いただいた。 ②生徒会主催の清掃活動への協力について、運営協議会内で役割分担を行い、生徒の活動支援を行った。	A	①各行事の実施に係る支援を中心に、PTAとの協力を工夫していく。 ②教育活動の質の向上のため、学校運営協議会において熟議を重ねていく。
		・本校教育活動・PTA活動に関する情報の発信	①ホームページによる情報発信を積極的に行っていく。 ②保護者が来校する機会を増やしていく(アンケートの実施)。	①ホームページの閲覧回数や学校だよりの発行。 ②学校を公開した回数や保護者アンケートの内容。	①校内で実施した生徒の活動について月1回程度ホームページを更新した。また、学校だよりの発行、スクリーン、学校安心メールを活用しながら、生徒の活動の様子を伝えた。 ②学校を公開した回数6回。生徒の活動、教職員の支援について概ね肯定的な回答の割合が97%。	B	①学校ホームページの更新頻度をあげていく。 ②学期に1回以上、学校を公開するよう、年間行事を計画していく。
4	<現状> ○校舎や施設について、老朽化による破損等が多い。 <課題> ○安全安心な環境整備及び学校運営に係る公金と施設管理の適正性、可視性の担保。 ○生徒にとって学校が居心地のよい Well-being な場所であり続けなければならない。	・経年劣化等による施設等への適宜適切な対応	①管理職と事務職員での総点検を実施し、危険箇所を洗い出し、年度内に修繕の見直しをつける。 ②教職員による安全点検で課題とされた箇所について、迅速に対応する組織づくりを実現する。 ③適正に予算執行するため、事務職員を加えた会計担当者会議を実施する。	①学校評価において、学校施設の管理は安心だとする割合の向上。 ②会計担当者会議を設立し、学校評価において予算執行について安心するという割合の維持。	①音楽室のエアコン、昇降口の鍵、正門の門灯、雨漏りの修繕、樹木の剪定等を実施した。施設面の整備に係る学校評価保護者・地域アンケートの肯定的回答89%。 ②校内会計業務について、PTA 監査委員の協力を得て、100%適正に執行した。また、学校運営協議会内で予算執行について報告を行った。予算執行に係る学校評価教職員アンケートの肯定的回答94%。	A	①次年度以降も、教職員による安全点検を毎月実施し、課題とされた箇所について、迅速に対応する組織づくりを構築する。 ②会計担当者会議を毎年4月に実施し、年間の予定や校内会計業務の手順等について確認を行い、適正に予算執行するための組織を構築する。
		・教職員の教育に係る意識や知識の向上(エージェンシーの向上)	①教職員への啓発資料を作成し、掲示もしくは配付する。また、運営委員会、生徒指導委員会、職員会議における支持伝達における啓発。 ②臨時的任用教員への指導(学習会)を実施する。 ③教職員輪番制による危機管理スピーチを実施する。	①啓発資料の作成回数(月に2回以上)。 ②臨時的任用教員の研修回数(5回以上)。 ③危機管理スピーチの実施回数(8回以上)。	①啓発資料の掲示を月2回以上実施した。 ②臨時的任用教員の研修を月1回以上実施した。 ③危機管理に係る指導を8回以上実施した。	B	①学校課題研究を通して、授業方法、生徒指導・教育相談の指導方法、特別な配慮を要する生徒への対応等について研修し、より理解を深める。 ②業務の整理、効率化に取り組み、教職員の心身の健康を維持し、教育の質の向上を図る。
5	<現状> ○保護者や生徒、地域住民の皆様方の負託を受け、岸中学校に通う生徒のために、業務に動かしむ姿を見ることが出来る。 <課題> ○歴史と伝統ある岸中学校ゆえに、異動してきた教職員が、岸中学校の保護者や生徒の要望をつかみきれずにいる。	・教職員の教育に係る意識や知識の向上(エージェンシーの向上)	①教職員への啓発資料を作成し、掲示もしくは配付する。また、運営委員会、生徒指導委員会、職員会議における支持伝達における啓発。 ②臨時的任用教員への指導(学習会)を実施する。 ③教職員輪番制による危機管理スピーチを実施する。	①啓発資料の作成回数(月に2回以上)。 ②臨時的任用教員の研修回数(5回以上)。 ③危機管理スピーチの実施回数(8回以上)。	①啓発資料の掲示を月2回以上実施した。 ②臨時的任用教員の研修を月1回以上実施した。 ③危機管理に係る指導を8回以上実施した。	B	●探究的な学びの授業実践を、計画的に学校課題研究として取り組んだ。 ●質の高い授業、質の高い指導ができるよう、今後も、研修の機会の充実をお願いしたい。

学校運営協議会による評価  
 実施日令和8年2月24日  
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等

●生徒の学力は、高い水準にある。  
 ●ICTをツールとして活用した授業実践に取り組み成果を挙げた。今後も、授業の質を向上する取組をお願いしたい。  
 ●さいたまエンジンの企業提案は、生徒にとって新たなチャレンジ体験となっているようで良いと思う。

●外部機関と連携するケースが増え、必要な支援が行き届いている。  
 ●今後も、生徒の個別の課題について、丁寧に行き届いた支援をお願いしたい。  
 ●岸中でしか経験できない行事を維持継続。充実してほしい

●生徒会の提案の「地域と学校のごみ拾いと除草作業」を運営協議会で熟議し、役割を明確にして実施することができた。  
 ●今後も、保護者が生徒の良い活動を参観する機会を継続してほしい。

●今年度、空調機が比較的、快適でよかった。  
 ●学校運営協議会で会計についての説明があり、学校環境の様子がよく理解できるようになった。